

スペインの生んだ20世紀彫刻の情熱 エドゥアルド・チリーダ Eduardo Chillida

会 期 : 2006年6月10日(土)～7月30日(日)
休 館 日 : 月曜日(ただし、7月17日(月)は開館)、7月18日(火)
開館時間 : 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
観 覧 料 : 一般1000(900)円、20歳未満・学生850(750)円、65歳以上500円
()内は20名以上の団体料金です。高校生以下の方、障害者の方は無料です。
会 場 : 神奈川県立近代美術館 鎌倉 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-1-53 tel.0467-22-5000
主 催 : 神奈川県立近代美術館

スペインが誇る20世紀彫刻の巨匠、エドゥアルド・チリーダ(1924-2002)の、国内初の本格的回顧展を開催いたします。バスク地方のビスケー湾に面したサン・セバスティアンに生まれたチリーダは78歳で他界するまで、鉄をはじめ石やテラコッタによる緊張感に満ちた力強い抽象彫刻を、ひたむきな情熱をもって創作し続けました。

チリーダは、スペインをはじめとする欧米の各地に設置された屋外彫刻によって知られています。彼の作品はしばしば規模も大きく、素材の特性を強調するものですが、周囲の環境と対峙するのではなく、環境と対話するという性格を宿しています。作品は物のかたまりとして屹立し、周囲の空間や内側にとりこまれた空間も作品と同等の比重で扱われており、対話するという性質をそこに見出すことができるでしょう。そこには雄大さや抱擁感、時にほのかなユーモアさえ漂っています。それらは自然や環境への深い思索と敬虔な姿勢に裏付けられた作品群といえるでしょう。

チリーダの作品はその規模の大きさゆえ、これまで日本ではまとまった形では紹介されていませんでしたが、今回の展覧会は彫刻家の故郷サン・セバスティアン近郊にあるチリーダ=レク美術館の全面的な協力により、鉄やスチールなどによる彫刻、テラコッタによる〈土〉のシリーズ、紙によるレリーフ彫刻ともいべき〈重力〉のシリーズ、そして版画など、約80点の作品群によってこの彫刻家の多面的な姿を紹介しようとするものです。

■ 学芸員によるギャラリートーク 7月8日(土) 午後3時から

■ ワークショップ 「あなたの《^{ルッラ}土》をつくろう」
7月16日(日) 午前10時30分～午後4時
講師：多和圭三 (彫刻家)
対象：10歳以上の方 要申込み (定員：先着14名)
参加費：300円(材料費・保険料として) *展覧会の観覧券は別途購入願います。
応募方法：氏名・住所・年齢・電話番号・ファックス番号を
明記の上、ファックスでご応募ください。
FAX.0467-23-2464 「チリーダ展ワークショップ」係宛

詳しくは、美術館ホームページに掲載される下記のプレス情報をご覧ください。
http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/press/2006r_chillida.pdf

お問い合わせ先

神奈川県立近代美術館 鎌倉 〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-1-53
tel.0467-22-5000 / fax.0467-23-2464 広報担当：林 展覧会担当：是枝
<http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/>



1. サン・セバスティアンの《風の櫛》 1977年



2. 《土 G-85》 1985年 テラコッタ チリーダ=レク美術館蔵
photo ©jesús Uriartec



3. 《異端の建築 III》 2000年 アラバスター
チリーダ=レク美術館蔵 photo ©jesús Uriartec



4. 《重力》 1986年 インク・紙、切り込み
チリーダ=レク美術館蔵 photo ©jesús Uriartec



5. 《寛容の記念碑のためのプロジェクト》 1982年 スティール
チリーダ=レク美術館蔵 photo ©jesús Uriartec



6. スタジオにて 1997年 photo ©jesús Uriartec